ニューヨークにおける留学生の生活の実態と支援

医学部健康総合科学科

長谷川叶佳

2025/03/03～03/07 @New York, America

学籍番号: 02-242025

研修の目的

海外留学する日本人学生が、異文化環境でも心身の健康を保ちながら生活できるよう、現地での課題と支援策を調査すること

- ①留学生が直面する悩みや課題の把握
- ②教育機関による支援体制の調査

研修スケジュール

3/4(火)

- ・One To World訪問・インタビュー
- ・語学学校の日本人学生にインタビュー

3/5(水)

- ・ニューヨーク大学の日本人学生にインタビュー

3/6(木)

- ・ダンス留学生にインタビュー
- ・コロンビア大学の学生にインタビュー

3/7(金)

- ・NYU Japanese Cultural Associationの餅つきイベントを見学

見えてきた主な課題

孤独感やコミュニティの希薄さ

⇒ 留学生同士のつながりが限定的で、友人づくりが難しい

住環境の確保の困難さ

⇒ 信用スコアや高額保証が求められ、住宅探しが大きな壁。

医療制度・保険の壁

⇒ 保険料の高さや制度の複雑さが心理的負担に。大学の支援制度の周知不足

⇒ 留学生にとって必要な制度情報にアクセスしづらい

支援の好事例

One To World

・現地社会との交流を促進する多彩なイベントを通じて、孤立の緩和と生活支援を提供

大学の文化系学生団体(JCA/JSA)

・言語や文化的背景が近い仲間とつながれる安心の間。イベントを通じた異文化交流の促進

語学学校やスクールのアクティビティ

・観光や文化体験を通じたネットワーク構築支援

研修を通じて得た学び

留学は「勉強」だけでなく、生活・人間関係・将来設計まで含めたトータルな経験である

留学生支援には、大学や団体だけでなく、地域・同世代・元留学生など多様な関与が不可欠

制度面の整備だけでなく、「心理的な居場所」をつくる支援の重要性を実感した

各スケジュールの詳細

1日目:

One To World(留学生支援団体)訪問・インタビュー

- ・ニューヨークを拠点とする非営利団体で、地域住民との交流イベントや、教育プログラムを通じて留学生を多角的に支援
- ・文化イベントや学校訪問プログラムを通じて多様な交流の場を提供
- ・住宅支援やJ-1ビザサポートなど生活面の支援も

語学学校に通う日本人学生インタビュー

- ・語学学校では日常英会話の習得に取り組みつつも、日本人が多いため他国の学生と深く交流することが難しいとの声があった
- ・生活面では、住まい探しに苦労した経験を共有してくれた。日本の留学エージェントを頼るしかなく、情報の非対称性に課題を感じていた

2日目:

ニューヨーク大学の正規日本人留学生インタビュー

- ・授業、課外活動、キャリア設計まで自己管理が求められる中、現地で成長していく過程を伺うことができた
- ・JCA(Japanese Cultural Association)のような学生団体が、一つの拠り所となっている様子が印象的だった

3日目:

ブロードウェイ・ダンス・センターの日本人留学生インタビュー

- ・留学を選んだこと自体が、周囲から「特別視」されるプレッシャーにつながることや、文化的なギャップよりも生活上の実務的ハードル(手続き、移動、住まい)に戸惑うことが多かったと語っていた。

コロンビア大学の学生インタビュー

- ・学内に併設された病院やカウンセリングセンターなど、健康支援体制は整っているが、費用(保険料)は非常に高額であると感じた
- ・学内の日本人コミュニティ(JSA)は少数ながら、国籍を問わず「日本文化に関心のある学生」が交流する貴重な場として機能していた

4日目:

NYU Japanese Cultural Association(JCA)の餅つきイベント見学

- ・約30人が参加し、英語を中心に活発な交流が行われていた。参加者のバックグラウンドは非常に多様で、必ずしも日本人に限らない
- ・餅つきという伝統的な文化体験が、言語や出身に関係なく人々をつなぐ「共通体験」として機能していた